

水辺の 環境



サギソウ

ラン科ミズトンボ属 *Habenaria radiata* 鷺草

サギソウは、東北から九州の平地や山麓に広く分布する湿地性の多年草で、茎は高さ 15～40cm になり、茎の下部に 3～5 枚の細長い葉をつけます。7～8 月頃には 1～3 個の純白の花が咲き、花の大きさは約 3cm、唇弁と^{しんぺん}と呼ばれる部分が、翼を広げて舞っている白鷺のように見えることからこの名前がついています。

日本のランの中では、サギソウは栽培の容易な種として知られており、昔から園芸品種がつくられてきました。見た目の改良だけではなく、開花時期も品種により若干異なっています。これからの季節には、細長い葉に黄や白の斑の入った品種や背丈が低い品種などが販売され、家庭でも比較的手軽に楽しむことができます。また、これらの園芸品種は、公園で栽培されていることも多く、サギソウを主役とした鑑賞会も開催されるなど、人々に身近な植物として知られています。兵庫県姫路市では市のシンボルでもある姫路城(白鷺城)にふさわしい花として、東京都世田谷区ではサギソウ伝説という、世田谷城主^{きらよりやす}吉良頼康とその側室常盤姫^{とぎわひめ}にまつわる話が伝えられていることから、それぞれ市の花・区の花にも制定されています。

しかし、その特徴的な容姿と栽培のしやすさから、これまで自生地に生育する貴重な株の採掘が絶えませんでした。また、生育に適している湿性地についても、土地造成や開発により面積が縮小し、平成 9 年に公表された環境庁(当時)のレッドリスト(平成 12 年一部変更)では絶滅危惧Ⅱ類に指定されました。平成 12 年に発行されたレッドデータブックでは、生育が確認された地点の平均減少率は 60%、100 年後の絶滅確率は約 99% とされています。その後、各地で自生地保全の取り組みが行われ、平成 19 年に公表されたレッドリストではランクが 1 つ下がり、準絶滅危惧種と判定されました。これは保全の努力が進んだことによるものと考えられますが、自生地に生育する野生の個体群は、保全対策のもとで維持されていることが多く、これからも継続的な対策が必要です。

参考文献：「日本の野生生物(草本Ⅱ)」 平凡社 1982 年

環境省自然環境局 生物多様性センター インターネット自然研究所ホームページ

世田谷区ホームページ 世田谷区の花 鷺草(サギソウ)

姫路市ホームページ 姫路の市花「さぎ草」について

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物Ⅰ(維管束植物)」 環境庁編 2000 年
哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて 平成 19 年 8 月 3 日
報道記者発表資料(環境省)